

公園をみる・観る

= 酉年いろいろ講 =

西暦 2017 年。西暦の年数を 12 で割って余りが 1 の年が酉年なのだそう。

日本では酉は、鶏（ニワトリ）とみなされている。鶏は朝一番早く起きて鳴く。すべての生き物に先駆けて新しい年に会えるという意味で縁起がいい生き物とされている。俳句の世界では元旦のことを鶏旦（けいたん）と言い表すのも頷ける。鶏は人々の身近な生き物だけに古くから親しまれてきた。体は小さいながら先頭に立ってリーダーシップを発揮する雄鶏の勇姿に「鶏口と成るも牛後と成るなかれ」と激励し、仲の悪いことの例えに「犬猿の仲」という言葉があるが、干支の順に言えば酉は 10 番目に位置し、9 番目の申（サル）と 11 番目の戌（イヌ）の間で仲を取り持っているのだという話もある。松尾芭蕉が 14 才のとき詠んだ「犬と猿 世の中良かれ 酉の年」の句もこの話を念頭にしていることだろう。ついでに酉という字は酒壺から考えられた象形文字だそう。確かに酉の字は果実を詰めて熟成させ酒を造った太古の器を連想させる。その器をトリと発音し日本では鳥を当てはめ、さらに身近な鶏となったのだろう。

ところで、公園の生き物たちは新年・トリ年を元気に迎えたのだろうか。



干潟の杭に止まるミサゴ

公園の主役はなんと言っても鳥たちである。本年最初の開館日であった 1 月 2 日（特別開館日）にはカモ類や猛禽類のほかクロツラヘラサギなど 50 余種のトリが姿を現し、63 名の来園者たちと新年を寿いだ。アシ原では小さいトリたちが茎に潜む昆虫を食べようと葦の茎をむしる音がパリパリと絶え間なく聞こえていた。年が新たまったとはいえ小鳥にとっては昨日に続く今日の生活でしかないのだ。

カモたちが池にのんびり浮かぶ姿や、小鳥たちの変わらぬ生活ぶりを見ながら、今年が平和で安全な一年となりますようにと願うばかりだ。



メジロ

「トリ」の発音が「取り込む」に通じ商売屋さんには「客をトリ込む」といって特に運のいい年であるらしい。公園は商売ではないので来園者を「トリ込もう」とは思っていないが、やはり多くの人に訪れてもらい、自然に親しむ機会を持ってもらえたらという意味で、人々を「虜（トリコ）」に出来る酉年の公園となればいいなと思っている。（土×土）